



**Vasilii Mikhailovich Golovnin**  
***Begebenheiten des Capitains von der Russisch-Kaiserlichen Marine,***  
***Golownin, in der Gefangenschaft bei den Japanern***  
***in den Jahren 1811, 1812 und 1813 :***  
***nebst seinen Bemerkungen über das Japanische Reich und Volk und***  
***einem Anhang des Capitains Rikord***  
**Leipzig, 1817-1818**  
**German version, originally published in St. Petersburg, 1816**  
**ゴロヴニン著 『日本幽囚記』**

江戸時代末期、通商をもとめるロシアとそれを拒絶する日本は緊張関係にあった。そうした情勢のなか、1811(文化8)年、千島列島の調査航海をしていたロシア艦船ディアナ号の乗組員らが国後島で幕府の警備兵に捕えられる。

ディアナ号の艦長ゴロヴニン(1776-1831)は、松前・箱館(函館)で2年3ヶ月のあいだ抑留生活を送り、1813(文化10)年、ロシアに捕えられていた高田屋嘉兵衛(1769-1827)との交換で釈放された。

本書は、ゴロヴニンによる捕虜生活の手記と、その間の見聞・考察による日本国及び日本人論である。帰国後の1816(文化13)年に出版されると、日本に関する最も信頼のおける史料として高く評価され、ヨーロッパ各国語に翻訳された。日本においても1825(文政8)年に『遭厄日本紀事』(そうやくにほんきじ)として紹介される。

展示資料は、ライプツヒにおいて1817-1818年に発行されたドイツ語版。JFICライブラリーではオランダ語版(1817-1818)、英語版(1818)も所蔵している。